

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	監査論B（AuditingB）		
ナンバリングコード	E30612	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 後期
必修・選択区分	選択：経営経済学部 コース選択必修：情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E008851	クラス名	-
担当教員名	工藤 順一		
履修上の注意、 履修条件	監査を学ぶことは、社会人となって、県庁や市役所（警察・消防を含む）等の公務員を目指す人にも、企業に就職する人にとっても、とても有用です。 できるだけ毎日、新聞等には目を通して、地域の経営や経済の記事に接しておきましょう。講義には出席してください。その際に最新の監査基準を持参してください。監査基準は、インターネット等でも入手できます。		
教科書	レジュメを用いて授業を進めます。		
参考文献及び指定図書	盛田良久著「まなびの入門監査論」（中央経済者） 「会計監査論 第5版」 山浦久司著 中央経済社 「監査法規集」 中央経済社 平林亮子著		
関連科目	簿記入門 財務諸表論 原価計算論 管理会計論、財務管理論		

○基本情報		
授業の目的	お金の動きのあるところには必ず監査を伴います。金融機関や県庁・市役所はもちろん一般企業においても監査は必須です。このため、この講義においては、監査の基礎を理解するだけでなく、就職して社会人となったときに、実際に監査に立ち会ったり、監査に関する自分の部署の資料を提出する際にとまどわないように、監査の実際の場面をYouTube等を見ながら進めます。日経新聞や大分合同新聞等を使用して、企業が抱えている多くの監査上の問題点等も学習します。	
授業の概要	監査論Bでは、監査論Aの基礎を勉強します。監査とは何か、なぜ監査が必要か、監査に備えて、どんな心構えでいたら良いのか等を学びます。監査に関するビデオ等を見ながら、実際の監査のやり方もみてみましょう。授業は、レジュメを配布し、レジュメに沿って進めていきます。専門用語は、最初はわかりにくいので、新聞記事等を見ながら、身近な話題から進めていきたいと思います。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は、大分県内のいくつかの企業の経営を支援してきました。その中で、各企業の決算書のデータを見ながら、多角的に考察・分析し、企業に課題解決のアドバイスを行いました。また、大分県や大分市といった公的機関と一緒に、補助金獲得の申請支援や、その補助金の使い道の報告の支援もやってきました。そのときに、監査で学んだ知識がとても役に立ちました。授業では、監査人の立場からだけでなく、監査を受ける会社側の立場からも説明しますので、授業を通して、実践的な面も学びましょう。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	3年生ともなると就職活動を通して新聞を読む機会も多くなりますが、日々、会計に関する記事が載っています。それらの記事は、監査論の学習にもつながっていますので関心を持って読んでください。	10点	10点	10点
【知識・理解】	監査論を通じて、会社法や金融商品取引法の知識を学んでください。株式会社等の資金調達のために、監査がどのように機能しているかを知ること、会社法等の理解も深くなります。	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	監査論で学んだ考え方を、実際の就職活動でどう表現するかを考えてみてください。就職活動では、面接があり、いろいろな質問をされます。言いたいことを、手短かに表現することを身につけましょう。	10点	10点	10点
【思考・判断・創造】	常に、なぜ？なぜ？という考え方を身につけてください。最初は、知識を覚えることも大切ですが、なぜそうなっているのかについても考えてください。	10点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
授業中に出す課題レポート等により、授業への取り組み姿勢や意欲を評価します。レポートの場合は、テーマに沿って、自分の言葉で書いてください。量と質の両面から評価します。課題のフィードバックの方法は、次回の講義までに、グーグルクラスの中で、課題試験の平均点と点数の分布、課題の解答を添付して配布します。期末試験により、監査の基礎的な知識の習得を評価します。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:授業に出席し、達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。なお、14回・15回の授業の中で、期末試験についても説明します。必ず出席してください。

○その他
教員との連絡方法:講義を行う18A31教室の隣に、私の研究室があります。気軽にお越しください。また、質問のある方は、グーグル クラス等で何でも質問してください。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名 担当教員	監査論B（AuditingB） 工藤 順一	授業コード	E008851
学修内容				
1. 会計監査の概要と目的 監査という言葉の由来や、監査論に関わる公認会計士試験について説明します。次に、監査基準第一「監査の目的」から、財務諸表監査の目的(意義)を見ていきましょう。監査基準第一監査の目的に沿って学習します。監査の目的については、監査論Bの授業を通じてとても大切なところですから、しっかり意義を覚えましょう。また、二重責任の原則についても学びましょう。				
予習 2年時に履修した財務諸表論のテキストを出して、会計の目的について復習しましょう。(約2.0h)				
復習 財務諸表論と監査論のつながりについて、配布したレジュメで復習しましょう。(約2.0h)				
2. 財務諸表監査の必要性 財務諸表監査は、なぜ必要とされるのでしょうか。また、我が国の経済社会の中で、財務諸表監査は、どのようにに位置づけられているのでしょうか。 企業の利害関係者(株主や債権者や、就職を希望する大学生等)は、自らの手で財務諸表の適否を調査することはできません。そこで、会計のプロである公認会計士が、利害関係者に代わって、財務諸表の適正性を調査・評価します。経済社会における開示制度の仕組みと一緒に、監査の必要性を学習します。				
予習 新聞記事等で、監査に関するニュースを見つけましょう。(約2.0h)				
復習 海外の株主や、会計を知らない投資家が、自分で監査できるかどうか、考えてみましょう。(約2.0h)				
3. 監査主体論 監査人、監査法人、公認会計士といった監査主体の意義を学習します。監査基準の一般基準で「監査人は、職業的専門家として、その専門能力の向上と実務経験等から得られる知識の蓄積に常に努めなければならない。」とあります。3回目の授業では、監査人の専門能力や実務経験、監査人の公正不偏の態度の意味や独立性について学習していきます。				
予習 独立性とは何かを、外部からの圧力とは何か、考えてみましょう。(約2.0h)				
復習 監査人の専門能力とは何かをもう一度復習しましょう(約2.0h)				
4. 監査の実施・リスクマネジメント 監査には、リスクを伴います。そのリスクを合理的に低い水準に抑えるために、財務諸表における重要な虚偽表示のリスクを評価し、発見リスクの水準を決定するとともに、監査上の重要性を勘案して監査計画を策定し、これに基づき監査を実施しなければなりません。監査の実施では、財務諸表監査は具体的にどのように実施されるのか、監査の実施における重要な論点を学習します。				
予習 監査人が監査を実施し、リスクを低く抑えるためにどんな準備をすべきか予習してきましょう。(約2.0h)				
復習 内部統制とは何か、企業に内部統制がない場合、どのような問題が起こるか復習しましょう。(約2.0h)				
5. 監査計画 監査人は、監査を効果的かつ効率的に実施するために、監査リスクと監査上の重要性を勘案して監査計画を策定しなければなりません。監査計画とは、監査を効果的かつ効率的に実施するために、監査の基本的な方針を策定し、詳細な監査計画を作成することです。具体的には、監査計画には、どのような種類があるのか、企業が監査をどのように位置付けて、どのような監査計画をたてているのか、企業の経営者に来ていただいて監査の実態を学習します。				
予習 日常生活において、計画を作成するのはどのような場合かを考えてきましょう。(約2.0h)				
復習 就職活動等、懐疑心をもって計画を作成する場合があるか考えておきましょう。(約2.0h)				
6. 監査要点の具体例 監査人が監査意見を述べるにあたっては、財務諸表の各項目、構成する要素となる取引や会計事象の正しさを確かめなければなりません。その目標を「監査要点」といい、これに適合した十分かつ適切な監査証拠を入手します。具体的には、実在性、網羅性、権利と義務の帰属、評価の妥当性、期間配分の適切性表示の妥当性等です。監査要点は、監査を受ける企業の業種、組織、情報処理システムなどに対応して監査人が自らの判断で設定します。				
予習 企業の決算書に計上されている資産について、資産の何が問題となるかを考えておきましょう。(約2.0h)				
復習 権利と義務の帰属とはどういうことをいうのか、復習しておきましょう。(約2.0h)				
7. 監査手続の具体例 監査を実施する公認会計士にとって、財務諸表に対して自己の意見を形成するうえで、十分な監査証拠が必要となります。監査手続は、内部統制を把握した上で、試査によって実施されます。具体的に監査手続には、実査、立会、視察、閲覧、確認、質問、証憑突合、計算突合、勘定分析、分析手続等があります。このような監査手続を学習します。				
予習 現金や預金が実際にどのくらいあるかは、どうやって調べるか予習してきてください。(約2.0h)				
復習 分析的手続きとは何かを復習しておきましょう。(約2.0h)				
8. 継続企業の前提 会計が行われるための前提である会計公準の一つに、継続企業の公準があります。通常の財務諸表は、原則として、企業は予測しうる将来にわたっては、事業を継続するという継続企業の前提に基づき作成されます。ところが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在する場合には、経営者は、財務諸表にどう対応すべきかについて学習します。監査人は、監査計画の策定に当たって、財務指標の悪化の傾向、財政破綻の可能性その他継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況の有無を確かめなければなりません。				
予習 財務指標の悪化の傾向、財政破綻の可能性の高い企業への監査は可能でしょうか？(約2.0h)				
復習 来年の入社が決まっている会社が、突然倒産したら、皆さんはどうしますか、考えてください。(約2.0h)				

○授業計画	科 目 名 担当教員	監査論B（AuditingB） 工藤 順一	授業コード	E008851
学修内容				
9. 経営者による確認書 監査人は、適正な財務諸表を作成する責任は経営者にあること、財務諸表の作成に関する基本的な事項、経営者が採用した会計方針、経営者は監査の実施に必要な資料を全て提示したこと及び監査人が必要と判断した事項について、経営者から書面をもって確認しなければなりません。このような経営者確認書の内容について学びます。				
予習 企業の経営者の責任について、新聞記事の中から関係する部分を選んできて下さい。(約2.0h)				
復習 経営者による確認書がなぜ必要なのか、監査人の責任との関係から復習しましょう。(約2.0h)				
10. 監査報告論 監査人は、財務諸表の適正性に関して意見を表明する場合には、監査報告書の中で、経営者が作成した財務諸表が適正に表示されているかどうかについて、意見を表明しなければなりません。その一方で、監査人は、経営者が作成した財務諸表が、会計の基準に準拠して作成されているかどうかについても、意見を表明しなければなりません。 ここでは、監査報告書の性質や、監査人は財務諸表が適切か否かをどのようにして判断するかなどを学習します。				
予習 監査報告書について、好きな企業の中から有価証券報告書をみておきましょう。(約2.0h)				
復習 監査報告書のフォーマットについて、専門用語を覚えておきましょう。(約2.0h)				
11. 重要な偶発事象 偶発事象とは、利益又は損失の発生する可能性が不確実な状況が貸借対照表日現在既に存在しており、その不確実性が、将来事象の発生することもしくは発生しないことによって最終的に回収されるものをいいます。具体的には、保証債務や係争事件に関わる損害賠償、手形割引裏書等が挙げられます。このような、重要な偶発事象について、学習します。				
予習 人生の中で、発生の可能性が高いものとそうでないものを想像してみましょう。(約2.0h)				
復習 発生の可能性が高い偶発損失に対して、皆さんは、どのように対応するか、考えてみましょう。(約2.0h)				
12. 他の監査人等の利用 監査人は、他の監査人によって行われた監査の結果を利用する場合には、当該他の監査人によって監査された財務諸表等の重要性、及び他の監査人の品質管理の状況等に基づく信頼性の程度を勘案して、他の監査人の実施した監査の結果を利用する程度及び方法を決定しなければなりません。				
予習 会計公準の3つの原則について調べておきましょう。(約2.0h)				
復習 新聞記事の中から、企業の存続に関わるような事象を見つけましょう。(約2.0h)				
13. 内部統制 経営者が正しい財務諸表を作成するために整備運用した会社内部のルールである内部統制について学習します。内部統制が有効な場合には、適正な財務諸表が作成されている可能性が高まるので、監査人は効率的に監査を実施することができます。逆に、内部統制が脆弱な場合には、重要な虚偽表示が含まれる可能性が高まりますので、監査人は重点的に監査を実施しなければなりません。ここでは内部統制の四つの目的や、内部統制の基本的要素・限界などについて学習します。				
予習 新聞記事の中から、内部統制に関わる記事や、公認会計士に関する記事を拾い出しましょう。(約2.0h)				
復習 内部統制の限界について、内部統制が機能しなくなる場合について考えてみましょう。(約2.0h)				
14. 総括(監査の必要性や監査人の独立性) 監査基準は、そのまま皆さんの就職活動に、とても参考となります。就職活動のリスクを考えて、就職活動計画を立て、企業や業界の持つ固有リスクや発見のリスクを低くするかを考えてみましょう。				
予習 水道水に例えて、水源で湧いた水が、いかにして自宅の水道に届くかを、順を追って考えてみましょう。(約2.0h)				
復習 就職活動上、企業の固有のリスクとは何かを考えてきましょう。(約2.0h)				
15. これまでの総括及び模擬試験 これまでに学習した範囲について、模擬試験を行い、皆さんの学習したことのそう整理を行います。				
予習 1回から14回までの資料を再度見直して、重要な点を読んできましょう。(約2.0h)				
復習 次週の期末試験に向けて、専門用語の整理等資料整理を行っておきましょう。(約2.0h)				
16. 期末試験 これまでに学習した範囲について試験を行います。				
予習 15回の授業の中で指摘した内容をよく読んで理解し、覚えてきましょう。				
復習 試験の中で、解答が書けなかった点について、早めに復習をしておきましょう。				